

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人 関記念 柘の木会		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812-1		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護の基本は接遇ということを念頭に置き、職員全員がトータルな接遇を身につけ、ご利用者の個々の尊厳、人格を尊重し、その人らしく穏やかな生活が送れる様に傾聴と寄り添いの気持ち、「今」を大切に支援している。出来る事、自立性を促しながら、本人の意向に沿った余暇活動、及び外出や生活支援、四季折々の行事を行いご利用者の笑顔を引き出せる企画作りに努めている。ご家族参加の行事も企画し楽しみを共有している。又、ご家族や主治医とも相談を密にし信頼関係を構築出来る様努めている。様々な想定避難訓練を毎月実施、地元消防団との連携を図りながら、防災に対する強い意識を持ち取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、北関東自動車道インターチェンジや東武線の最寄り駅からもほど近く交通の便がよい。大学病院や商業施設などが建ち並ぶ大きな県道から少し奥に入った静かで緑豊かな環境にある。「接遇は基本であり、接遇がきちんとしていれば丁寧な介護に繋がっていく」との管理者の考えのもと、職員教育に熱心に取り組んでいる。職員は事業所作成の介護接遇マニュアルを所持し、毎朝の打ち合わせのほか折に触れ見直し、基本に立ち返り日々の支援にあたっている。一人ひとりと根気よく関わり、個々の思いや生活歴などを知り、利用者が安心して暮らせるよう支援している。利用者はもちろん、家族に対しても、挨拶するときにも「こんにちは」だけではなく一言添えるなど、円滑なコミュニケーションに繋げている。職員は皆パワフルで明るく、笑顔を大切にしている。借景の新緑や紅葉など、各居室からの眺めもよく、手入れの行き届いた庭は、散歩や日光浴、利用者の憩いの場にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を各棟のホール、介護員室に掲示し、接遇目標や介護マニュアルを毎朝唱和し、支援に繋がる様職員全体で共有している。	事務所とホールに基本理念を掲示し、3ユニット合同で行う朝の打合せ時に唱和し共有している。地域との繋がりが家であることを基本に、利用者に寄り添うことを意識した理念であり、介護接遇マニュアルと併せ職員間で共有し、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社や寺の祭りへの参加が恒例になっており、住民方々手作りの食事を振舞って頂いたり、健康体操と一緒にしながら交流している。中学生の体験や、各種ボランティアの受け入れも継続している。	地域の神社や寺の祭では、地域の方も利用者の参加を楽しみにしており、席を準備して迎え入れてくれる。事業所で行う文化祭の案内を自治会で回覧してもらっている。三味線やハーモニカ演奏、書道、民話の会、傾聴ボランティアなどを受け入れ、町内や地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や運営推進会議を通して認知症の症状や、接し方、日頃行っているケアについて話をさせて頂いている。又、地域行事の際に、理解や支援方法など話す機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族代表、民生委員、健康福祉課、地域包括支援センター職員を構成員として、年6回開催している。ご利用者状況、行事や運営に関する事を報告し意見、要望などを参考に改善し、サービスの向上に繋げている。年に1度は消防署、地元消防団、ボランティアの方々をメンバーとし意見交換、助言を頂いている。議事録は回覧し、全職員に周知しご家族にはご家族懇談会にて知らせている。	3ユニット合同で開催している。各種行事や研修の報告、防災、家族懇談や利用者アンケートの結果とその後の取り組み等を伝え、参加者から意見や助言をもらっている。民生委員から地域の情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で状況や活動報告、ケアサービスの取り組みを知らせている他、随時電話等で相談や助言を頂く等、連携を図っている。町の福祉祭りには、法人として協力関係を築いている。	運営推進会議を通して事業所の取り組みを伝え、情報交換している。町主催の福祉祭には法人として協力しており、毎年事業所の職員も参加し関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の習慣、気持ちを理解し言葉による拘束を含め、身体拘束を行わないケアを実践している。内部研修により正しく理解しケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。門扉は閉めてあるが錠はついていない。	強い口調や注意語ではない好ましい言葉の言い換えなどを毎日確認し支援にあたっている。職員は忙しい業務の中でも日々心穏やかであることを心がけている。個々の思いに寄り添い、さりげない声かけや見守りに努めることで、鍵をかけずに自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や、接遇改善委員会を中心に虐待防止に努め、敬う気持ちを大切に、明るいホーム作りを目指している。言葉遣いが適切か、注意し合いご利用者対応のロールプレイングも実施、意識を高めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて知識習得に努めている。身内関係が希薄なご利用者には、安心して生活を送れる様関係者との連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書で納得のいくまで確認して頂き、説明、相談、話し合いをしている。退居については理由を明確にし、理解を図り、不安の無い様十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時には、積極的に話し掛け意見要望を伺える機会を設け、ご家族懇談会やご利用者にはアンケートを実施、満足度を伺っている。その他、普段の会話の中で気軽に意見や、要望が表せる様、コミュニケーションを大切にしている。	年に一度、利用者集会を行っている。日頃の生活やケアについてのアンケートを採り意見の把握に努めている。面会時や家族懇談会など家族が話しやすい環境作りに努めている。家族の要望から、協力医の往診により事業所内でインフルエンザの予防接種をうけられるようにするなど、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、各棟のカンファレンス、朝礼時、リーダー会議、又、随時意見を聞く機会を設け、話しやすい環境づくりに努めている。職員の気付きや、意見は検討し反映させている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大切に考えている。職員同士のコミュニケーションも図りやすいよう、休憩の取り方の工夫や年長の職員が若手職員を気遣うなど、職員間の関係も大切にし、相談しやすい環境作りをしている。行事の提案や支援内容の工夫など、職員の気付きや意見を取り入れ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況、努力、実績等を把握し、給与、賞与に反映している。又、業務管理シートにて個人の達成度に向けても上司と面接を行い、向上心を持つ様努めている。各委員会活動、行事企画運営、居室担当を持ち、やりがいがある様、環境を整えている。成果を認める声掛けを忘れず、コミュニケーションを図る努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には新人用マニュアルに沿って力量を把握しながら勤めている。外部研修は、段階に応じて受講出来る様、機会を与えている。内部研修は毎月行い、交替で参加出来る様配慮している。又、各自資格取得の講習、研修も同様である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム総会や研修会を通じて活動内容や取り組み等参考にしている。同法人のグループホームとの交流は相互訪問し行事等を通じてサービスの向上に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居しても安心した生活が送れる事をお話している。思っている事、不安な事をお聞きして入居しても、自宅と同じ生活が出来る事、少しでも不安を取り除く事ができるように話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の心に寄り添って、どのような事を困っているのか、不安に思っているのかを確認しながら、今後安心して生活が送れる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がどういう事を必要としているのか？ご本人にとってどんな支援が必要なのかを見出し、入居後必要に応じた支援が出来る様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の思いを尊重し、寄り添い、行動を共にしたり、時には見守りながらご利用者の時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを尊重し、信頼関係を築いている。懇談会を実施、情報共有し、ご利用者の思いを伝えている。うらら便りではその月の生活等を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、ご兄弟、ご友人との大切にしてきた関係が途切れないように、面会等の対応や外出支援等で立ち寄れるよう支援している。	家族の定期的な面会の他、友人が継続して来所している利用者もいる。一緒におやつや食事の時間を楽しむなど、来所しやすい雰囲気作りに努めている。家族や職員が付き添い墓参りに出かけることもある。	馴染みの店への買い物や思い出の場所への外出など、利用者一人ひとりがこれまで培ってきた場とのつながりを継続できるような機会作りの検討を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、孤立しない様、目配り、気配りをしながら、時には職員が間に入り、ご利用者同士の関わりを大切にしている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居られた後もサービスに関する助言をさせて頂いたり、相談に来られる方の支援に努めている。又、講話指導に来て下さる方との関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の望む暮らしを実現できるようにご意向の把握に努めている。支援する職員全員で情報共有しながら、少しでも望む暮らしが出来る様に努め、必要時カンファレンスを行っている。	普段からよく話を聞くようにしている。言葉での訴えの他、表情や態度などの些細な変化からも察し把握に努めている。困難な場合も、家族からの聞き取りや、普段の関わりから慮っている。利用者アンケートや利用者集会での意見からも思いや意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から今までの馴染みの暮らし方、生活環境を伺って、少しでも近い状況で生活して頂けるよう努めている。自宅で生活していた時、どのようなサービスを利用していたか把握も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、一日の過ごし方が様々なので、健康状態を把握すると共に、一人ひとりの生活スタイルの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人にとって一番大切なニーズは何か、ケアの方向性を見出し、都度ご家族、職員と話し合いを行っている。ご意向に沿い、ニーズを考えたプランになるようにしている。	よく話し合い、家族と本人の要望を必ず反映している。主治医、協力医、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。定期的なモニタリングにより援助目標の達成度を確認し、状況変化に応じ随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援時の様子を記録に記入。身近で接している者として毎日の生活上の変化、気づきを連絡ノート等を活用し、報連相を密に、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者とご家族の要望に適応した支援を取り入れ、受診や食事に出掛けている。誕生日には祝膳を用意し、他の利用者と共に祝い、大変喜ばれている。希望時外出支援も実施している。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こらっせ、傾聴ボランティア、書道、民生委員、役場、地域包括、消防参加の避難訓練、地元のお祭りへの参加、清掃ボランティアの協力を得て棟内、庭内の清掃、地域の人々に支えられて安全で安心した生活の場を確保する協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望する医師による医療機関に受診されている。その際の付き添いは基本としてご家族となる。主治医へ報告書作成や電話等で連携を密にしている。状態に応じた往診、歯科受診の往診も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時の付き添いは家族にお願いしている。主治医とは報告書や電話で連絡や相談をしている。内容は家族にも伝え納得した医療を受けられるよう3者で連携を図っている。必要に応じ歯科医の往診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて同法人施設の看護師に相談、助言や協力、また処置を受けられる様に支援している。訪問看護を利用した際は、密に連絡、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後ご家族に経過を伺ったり、直接病院に行き治療の経過、方向性、ご利用者の状態を確認している。また、退院時は、退院指導や注意事項など細かく確認し、医療機関、ご家族との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に至った場合の対応について説明している。そのような状態になってきた場合、ご家族や主治医に報告、相談をし指示を仰ぎ、方針を共有している。医療機関や他施設、同法人の事業所への住み替えなどを含めた説明なども行っている。	医師や看護師がいないので基本的には終末期医療や看取りは行っていないが、段階に応じて医療機関や他施設、同法人の特別養護老人ホームの紹介などを行い、連携を取りながらスムーズな移行を支援している。家族による訪問看護の手配や医師の往診など状況が整い最期まで受け入れた事例はある。本人と家族が納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故対応マニュアルを定位置に設置、全職員が熟知している。緊急時対応や感染症についての内部研修を開催し、全職員が迅速に対応出来る技術習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の各職員の役割は所定の場所に掲示している。毎月1回のうらら独自の想定避難訓練の他、地域の消防団、消防署の協力を得て実施している。隣接施設との定期合同避難訓練、召集訓練を実施しカンファレンスを行い改善マニュアルの見直し修正も行っている。火災報知機を利用し通報訓練も行っている。	消防署や消防団との定期的な防災訓練の他に、事業所独自の避難訓練を毎月実施している。出火場所、夜間や日中、真夏や真冬といった状況、大規模地震等、あらゆる状況下での災害を想定し訓練している。訓練で明らかになった課題は対策を話し合い改善に努め、職員に周知している。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を設け、内部研修、ロールプレイングを実施し、人生の先輩を敬い、誇りに思い言葉遣い接し方等について、意見交換して改善に努め、意識向上を図る為、朝礼時、介護接遇マニュアルを唱和している。	職員は介護接遇マニュアルを基に学び、振り返る機会を多くもち、日々意識して介護にあたっている。居室に入る際は一言声をかける、トイレ誘導時の声かけの配慮など基本的なことの他、個々の性格や生活歴に配慮し、本人が理解、納得のできる対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントを実施し本人の希望を伺い、日常生活の中でどのような生活をしたいか、生活の中で継続してきた事の把握をし、日々の体調の変化もある為、その日によつての希望を伺いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	起床、就寝、食事の時間は決めているが、一人ひとりのペースが違う為、それぞれの行動や動きを見て、声を掛けたり、見守り支援している。安心して過ごしやすいよう体調状態、思いを伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えたり、おしゃれをすることによって生活のメリハリが生まれ、清潔に、気持ちも明るくなって頂ける様支援している。職員の価値観だけでなく、本人がどのようにしたいか希望を聞きながら、毎日継続出来る様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、お皿や盛り付けを工夫している。個々の状態に合わせて食べやすい形にしたり、ゆっくり味わって頂ける様に職員も同じテーブルで食事を摂っている。又、食後も食器の片付けや食器拭き等ご利用者にお手伝い頂いている。	食材宅配を利用し職員が調理し、利用者と職員と一緒に食卓を囲み、和気藹々と家庭的な雰囲気の中で食事をとっている。食器拭きなど残存機能を活かした手伝いは利用者のやりがいにも繋がっている。花見弁当や流しそうめんなど季節の行事食や、旬の食べ物を取り入れ、食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して栄養、水分量が摂れる様に状態を把握し、その日の体調や運動量も観察している。嗜好品や習慣、希望に応じながら、カロリーの過不足、栄養の偏り、水分不足にならないように声掛け支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。個々に合わせ、歯間ブラシやマウスウォッシュを活用している。又、就寝時には義歯洗浄を毎日行い、清潔保持に努めている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレの声掛けやポータブルトイレを使用し、個々に合わせた排泄介助を行っている。又、プライバシーに配慮した声掛けを意識し、トイレでの排泄を促している。	自立している利用者は本人のペースで、他は時間や様子を見ながら声かけや誘導、介助を行い、日中はトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヨーグルトを摂取している。排便チェック表を毎日確認しているが、便秘がちな方には、足裏マッサージや、散策、棟内歩行にて予防に努めている。主治医との連携も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体機能に合わせて介助を行い、ゆっくりと湯船に入って頂く事で、一人の時間を楽しんで頂いている。入浴拒否がある方は声掛けを工夫したり、時間をずらしたりと工夫している。	入浴の順番や時間など、利用者の思いや希望に合わせて柔軟に対応している。入浴中は歌や会話などを楽しみながらリラックスして入浴できるよう支援している。拒否がある利用者にも時間帯や言葉かけなど誘い方を工夫しながら、個々に合った対応で気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応の為、就寝前は自室でTVを見たり、ラジオを聴いたり、以前の生活スタイルに近いようにして過ごして頂いている。また、就寝前には、ハチミツ生姜湯を提供し安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書をファイルし、いつでも確認、把握できる様にしている。又、誤薬の無い様3回チェックをして与薬し、内服の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく行える家事手伝いをして頂き、役割を持つことにより、張り合いのある生活をして頂いている。趣味の継続が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や誕生日の過ごし方等で希望を伺い、要望に沿った外出支援に努めている。近所のお花見や銀杏並木の見物は、皆様楽しみにされている。日常的には散策や観音様参拝を日課にされている方もいる。	天気の良い日は敷地内の散歩をしている。庭には花壇やベンチ、テーブルなどもあり、暖かい日には外でレクリエーションをしたりお茶のみをすることもある。毎年3ユニット合同で一泊旅行へ出かけている。近隣の大学病院へ家族も誘い花見へ出かけたり、ドライブや外食、喫茶店へ珈琲を飲みに行ったりと、様々な企画により、外出を楽しめるよう支援している。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしていて、外出や行事の時に使っている。ご利用者も預けているお金があることに安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて電話でお話出来る様支援している。又、携帯電話で自由に連絡を取りあっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が混乱しないように物を置き過ぎず、スッキリ快適に過ごして頂ける様な空間作りをしている。温度、湿度調節を常に行い、気持ち良く生活して頂ける様に心掛けている。ホールに、ご利用者と作成した季節の飾りを展示し工夫している。	翠は緑、茜は赤、菫は紫と、各ユニット毎のテーマカラーを基調に、季節感のある装飾を取り入れながら、家庭らしく心地よく落ち着けるよう配慮している。テーブル席やソファ席の他にマッサージ器具を置き、臭いや温湿度管理にも気配りしながら、リラックスできる空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の席を設けて隣席や同席でご利用者同士会話が出来る様配慮している。足裏マッサージやホットパックを行いながら独りになる空間を作るなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきた調度品を持ち込んで頂いたり、ご家族の写真や仏壇などを設置し入居前に近い生活が続けられるように工夫している。TVを観ながらゆっくりと過ごせるよう配慮している。	窓には障子があり、和を意識した作りで、翠ユニットには畳もある。ベッド、箆笥、押入、洗面台が備え付けである。携帯電話や仏壇、植木、化粧品、テレビ、テーブル、椅子、ソファ、本やノート、筆記具などを自由に持ち込み、各々その人らしく、居心地よく過ごせる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置にて安全を確保、車椅子自走や歩行の妨げにならない様に物を置かない様にしている。トイレや居室の場所を分かり易い様に張り紙をして、自立した生活が送れる様工夫している。		